

令和6年度第三者評価 改善状況報告書

令和7年3月31日

施設名	赤坂地区いきいきプラザ（3館）	施設所管課	赤坂地区総合支所 管理課
所在地	港区南青山2-16-5 他2か所	指定管理者	ビーウォッシュ・太平ビルサービス 共同事業体

改善すべき指摘内容等	対応事業者 (共同事業者の場合記入)	令和7年3月までの改善状況等 (指定管理者記入欄)	令和7年4月以降の取組予定 (指定管理者記入欄)	所管課確認欄 (施設所管課記入欄)
全体講評				
基本マニュアルには、情報管理に関する厳格な対応が定められている。しかし、人が行う業務である以上、常に完璧を維持することは難しい。例えば、個人情報に関する資料をすぐに片付けず、机の上に置いたまま別の業務で席を離れるといった状況も起こり得る。個人情報は必ずファイルにまとめ、外部から見えないよう適切に管理することが求められる。	株式会社ビーウォッシュ・太平ビルサービス 共同事業体	個人情報ファイルの管理については、施設できるキャビネットに常時保管。必要時のみ取り出し、業務終了後に即、キャビネットへ収納することを改めて周知し、個人情報に関する資料が片付けられていないことがある場合は、職員同士その場で注意することを徹底し、個人情報管理についての意識を高め実行した。	令和7年度3月までに行ったことを引き続き継続し、個人情報の取り扱いを含め情報セキュリティに関するチェックを定期的に行い、情報管理に関する職員の意識レベルを向上させる。	個人情報の管理について、マニュアルで定められ、適切に保管されていることを確認した。引き続き、現行の取組の維持するとともに、研修等を通じて職員の意識を高めていけるよう支援する。
いきいきプラザの利用率を見ると、男性利用者の割合が高い傾向にある。そのため、当館では地域活動の一環として、地域訪問や都営住宅の集会に参加し、来館促進を行っている。特に、独居で閉じこもりがちになりやすい男性高齢者に向けて、興味を引く事業を紹介し、外出の機会を増やす取り組みを進めている。今後はさらに館の専門性を活かした健康維持支援へとつなげる活動を期待したい。	株式会社ビーウォッシュ・太平ビルサービス 共同事業体	都営住宅での事業の開催。また、男性に特化した「メンズストレッチ」を開催。「ノルデックウォーキング」にて館外の事業を展開し、男性利用者を獲得した。	既存の事業においても、男性に特化した内容での開催を検討する。また、一つの事業から男性が継続的に参加できる、つながりのある事業を展開し、男性の利用促進に繋げていく。また、赤坂地区のいきいきプラザで情報共有を行い、各館で協力しながら利用者の拡大を図る。	男性の継続的な利用促進や新規利用者の拡大に向け、館の特性を生かした事業の開催や周知等について支援していく。
コロナ禍以降、男性利用者が減少している傾向がある。具体的な対応策として、敬老の日には地域訪問を通じて直接声掛けを行っている。また、男性向けのプログラムとして麻雀教室や料理教室（80代が多く参加）、カラオケ教室、メンズストレッチなど健康づくりが開催されている。今後は、「世代別ニーズに応じたプログラム開発」、「参加のきっかけづくり」「地域の男性リーダーの活用」「家族や配偶者の協力促進」「広報の工夫」等を積極的に取り入れながら支援策を進め、さらなるサービスの向上を期待したい。	株式会社ビーウォッシュ・太平ビルサービス 共同事業体	男性の利用者を増やすため、POPでの周知、教室以外での利用者へ声掛け、また教室参加者に友達や家族に施設利用の声掛けをお願いした。実際に金曜ダンス教室に参加者の紹介で2名の参加があった。	引き続きPOPや窓口での声掛けを継続し、広報や区での掲示板等を利用し男性向け事業を周知することで、男性利用者を促進していく。また、赤坂地区のいきいきプラザで情報共有を行い、各館で協力しながら利用者の拡大を図る。	施設における周知の工夫により、男性利用者の増加につながるよう、支援していく。
掲示物の整理が必要である。現状、一部の掲示が乱雑で見づらい状況にあり、その原因として施設の狭さが影響していると考えられる。掲示物は目的ごとにコーナー分類し、適切な見出しを設置することで、利用者にとって分かりやすいものとなる。また、長期間掲示しているもの等については、期限を決めて定期的に更新・整理することが求められる。一定期間掲示した後には、不要なものは廃棄し、保存が必要なものについてはPDF形式に変換してパソコンで管理・閲覧できる仕組みを検討することが求められる。	株式会社ビーウォッシュ・太平ビルサービス 共同事業体	館で作成するPOPは一律A3にして見やすく掲示した。そのほか交換便等で送られてきたポスターやチラシ等は、来館者に見合った物を優先し、種類別に掲示した。	今後も利用者に情報が見やすいように掲示物を配置していくとともに、毎日掲示板をチェックすることで、長期間掲示している掲示物の貼り替えや破棄を行い整理していく。また、常時掲示する必要があるものに関しては、再印刷する等きれいなものに更新していく。	掲示方法の工夫により、利用者が必要な情報が見つけやすく、理解しやすいよう支援していく。
港区の災害発生時の避難場所に指定されており、これまでに利用者を含めた防災訓練が実施されている。現在、避難生活における健康維持の一環として、エコノミー症候群を防ぐための「血栓予防体操」事業が行われており、好評を得ている。大規模地震の発生や大型台風の到来に備えた避難対応も重要であるが、災害関連死を防ぐためには、避難後の対応も同様に重要である。そのため、適切な避難行動や避難生活に役立つ知識の普及を目的とし、高齢者が知っておくべき情報や活用できる支援策を事業として取り上げることが望まれる。	株式会社ビーウォッシュ・太平ビルサービス 共同事業体	体操サロンにて、避難生活において、エコノミー症候群を防ぐために体操が重要であることの説明を含め、血栓予防体操の紹介や、効果的な運動を実践した。	引き続き血栓予防体操等、避難生活時に役立つ運動を体操サロン等で紹介する。また、いきいきプラザが区民避難所であり、備蓄の準備があることを改めて紹介するとともに、消防署と協力し災害時における初動対応や避難生活に役立つ情報等を提供していく。	区民避難所として災害時における初動対応を職員全員が実践できるよう指導していくとともに、避難生活に役立つ情報を定期的に発信できるよう、支援していく。